

茶の湯釜から大筒まで

盛岡藩御釜師 小泉仁左衛門家の系譜とその仕事

県博日曜講座

2006.7.30 岩手県立博物館 学芸員 齋藤里香

はじめに

小泉仁左衛門家とは…

- ◆ 小泉五郎七清行(小泉家初代)
万治2年(1659)盛岡藩に召し抱えられ、南部釜の元祖となる!
 - ◆ 初代仁左衛門(1713没)
盛岡城三階櫓の鯨(しゃちほこ)、時鐘をつくる!
 - ◆ 三代仁左衛門(1784没)
茶の湯釜の寸法を縮めて鉦(つる)と口をつけたものをつくり、南部鉄瓶の元祖となる!
- ⇒ 盛岡の鑄物、南部鉄器の歴史上、重要な存在

1 盛岡鑄物事始

- ◆ 江戸初期
南部氏の盛岡築城にともない、各種職人が雇用される。鑄物師も来盛。
- ◆ 小泉家の来盛前
鑄物師 有坂家
 - ・ 明徳年間(1390~94)に甲州で南部氏に召し抱えられ、陸奥へ随ったとの伝承をもつ。
 - ・ 中津川の上ノ橋・中ノ橋の擬宝珠〔慶長14年、16年(1609、1611)〕の作者ともいう。鑄物師 鈴木家
 - ・ 初代は寛永2年(1625)に本誓寺の鐘を鑄造したといい、同18年(1641)に藩の召抱えと伝えられる。
- ◇ 中津川の擬宝珠
慶長14年(1609) 上ノ橋、慶長16年(1611) 中ノ橋
- ◇ 寺院の鐘
寛永2年(1625) 本誓寺鐘「藤原朝臣越前守」
寛永20年(1643) 正音寺など七寺の鐘
鈴木忠兵衛、鈴木七兵衛、豊後政吉らの名
- ◇ 盛岡城の時鐘
 - ・ 正保3年(1646) 鑄物師忠兵衛に藩命
銘「鈴木忠兵衛尉藤家久」「鈴木忠左衛門尉藤家次」
 - ・ 慶安5年(1652) 鑄物師忠兵衛に藩命
鑄物師棟梁4人、その外鑄物師26人
銘「鈴木忠兵衛少尉藤家久」「千田豊後守藤正吉」
「鈴木忠左衛門少尉藤家次」「在坂茂衛門少尉藤吉忠」

2 南部鉄器事始

- ◆ 安土桃山~江戸時代
茶の湯は武将にとって社交上必須のたしなみ。
- ◆ 南部信直(1546-99)
 - ・ 天正15年(1587) 家臣の北信愛(松斎)が加賀の前田利家に遣いの際、茶の湯の接待を受ける。
- ◆ 南部利直(初代盛岡藩主 1576-1632)
 - ・ 慶長15年(1610) 駿府の徳川家康に拝謁して茶の湯の接待を受け、「道阿弥肩衝」を拝領。

◆ 南部重直(二代盛岡藩主 1606-64)

- ・ 粟山大膳、方長老が盛岡藩にお預けとなり、文化面で影響を受ける。
- ・ 万治2年(1659) 釜屋五郎七(小泉五郎七清行)を召し抱える。

◆ 南部重信(三代盛岡藩主 1616-1702) 代

若殿様行信(四代盛岡藩主 1642-1702)

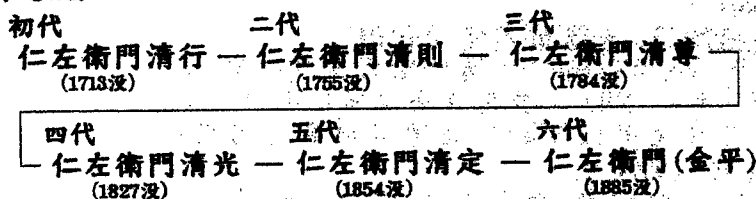
- ・ 延宝6年(1678) 釜屋五郎八(小泉五郎八清則)を召し抱える。

◆ 南部利雄(八代盛岡藩主 1725-79)

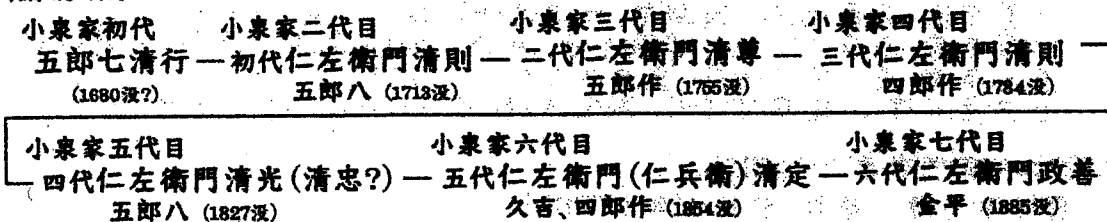
- ・ 江戸千家流祖・川上不自(1719-1807)に師事。
- ・ 藩内の茶道の江戸千家への統一を図る。
- ・ 三代仁左衛門(1784没)をことにかわいがり、仁左衛門を相手に茶の湯釜をつくつたと伝えられる。
- ・ この頃、三代仁左衛門が最初の南部鉄瓶をつくつたという。
- ・ 明和9年(1772) 松前藩主に「鉄茶壺」贈つたという記録があり、南部鉄瓶の初出とされる。(「利雄公御在国御留」盛岡市中央公民館蔵)

3 小泉仁左衛門家の系譜

〈通説〉



〈齋藤案〉



ポイント ① 小泉家初代清行=初代仁左衛門ではない？

- 初代仁左衛門は清行ではなく清則？
- 時鐘と盛岡城の鯨の作者は、清行ではなく清則？

ポイント ② 清則は 2人いた？

- 南部鉄瓶の元祖といわれる三代仁左衛門は、清尊ではなく 2人目の清則？

ポイント ③ 清忠って誰？

- = 常光寺香炉の制作年は？ 作者は誰？
- 天明3年(1783)の「義榮道忠信士」一周忌までの制作なら、2番目の清則
- 天明4年(1784)の「義榮道忠信士」三回忌以降の制作なら清光か？

4 小泉仁左衛門家の仕事

◆ 茶の湯釜、鉄瓶等の制作

釜師として代々茶釜等を制作していたと考えられるが、初期の遺作はほとんど知られておらず、記録もあまりない。

記録

・ 仁左衛門、子五郎作(初代仁左衛門清則、二代仁左衛門清尊)

宝永6年(1709) 五郎作「御釜 真の手 一つ」

仁左衛門「五徳 一つ」を献上 (「雑書」盛岡市中央公民館蔵)

- ・仁左衛門(二代仁左衛門清尊)
享保2年(1717) 松前藩主に贈った「御国細工釜一口」を制作
(「雑書」、「私鑄鈔」写本・花巻市博物館蔵)
- ・(三代仁左衛門清則)
明和9年(1772) 松前藩主に贈った「鉄葉罐」を制作か? (「利雄公御在国御留」)
- ・仁兵衛(五代仁左衛門清定か?)
「大振茶湯釜」 安政二年(1855)十月二日御上屋鋪御類焼之節焼失
(「御道具御判帳 天保八丁酉八月」盛岡市中央公民館蔵)

遺作

- 伝 初代仁左衛門作「鐔四方釜」(南部家旧蔵 盛岡市蔵)
- 四代仁左衛門作「老松釜」、「尻張釜」(盛岡市指定文化財 盛岡市蔵)
- 四代仁左衛門作「尻張形鉄瓶」、「小尻張鉄瓶」 など

◆ 各種鑄造品の制作

寺院の鐘や、仏像、香炉から、大鑄筒にいたるまで、幅広い作例が知られる。

初代仁左衛門清則(?-1713)

- ・時鐘〔盛岡・延宝7年(1679)〕 盛岡市指定文化財
- ・山谷観音鐔口〔遠野・元禄4年(1691)〕 遠野市指定文化財
- ・報恩寺鐘〔盛岡・元禄11年(1698)〕 盛岡市指定文化財
- ・薬師如来坐像〔大迫・宝永元年(1704)〕 花巻市指定文化財
- 盛岡城三階櫓の蟻(盛岡・1679、80)
- 光台寺鐘(盛岡・1688)、八幡宮鐘・銅板祈願文(遠野・1690)、
- 円光寺鐘(盛岡・1690)、常楽寺鐘(遠野・1690)、善導寺鉦鼓(二戸・1690)、
- 本誓寺鐘(盛岡・1690 ※鈴木、土橋合作)、高松寺鐘(八戸・1691)、
- 大蓮寺鐘(盛岡・1694)、常福寺鐘(遠野・1694)、報恩寺香炉(盛岡・1698)、
- 専念寺鐘(五戸町・1699)、清光寺半鐘(二戸・1703)、
- 山王権現鐔口(盛岡・1704)、極楽寺鐘(紫波・1706)、来迎寺鐘(紫波・1707)

二代仁左衛門清尊(?-1755)

- ・清水寺半鐘〔盛岡・宝永6年(1709)〕
- ・恩流寺半鐘〔盛岡・宝永6年(1709)〕 盛岡市指定文化財
- ・大慈寺鐘〔遠野・宝永7年(1710)〕 遠野市指定文化財
- ・寶積寺半鐘〔岩手町・享保13年(1728)〕
- ・正傳寺半鐘〔盛岡・享保16年(1731)〕
- 新羅三郎義光守り観音の複製鑄造〔伝南部利幹または利視代(1708~52)〕?
- 清水寺鐘(盛岡・1709)、報恩寺半鐘(盛岡・1710)、大円寺鐘(川井村・1715)、
- 櫛引八幡宮鐘(八戸・1715)

三代仁左衛門清則(1725-1784)

- ・櫛引八幡宮青銅擬宝珠〔宝暦12年(1762)〕 八戸市文化財
- 加賀象嵌鐙の模作(1746)?、虎の大香炉〔伝・南部利雄代(1752~79)〕?

四代仁左衛門清光(清忠?) (1755-1827)

- ? 常光寺香炉〔紫波・天明2年(1782)以降〕
- 堀与斎より大鑄筒伝授(1780) / 一貫目唐金鑄筒鑄造(1806)

五代仁左衛門(仁兵衛)清定(1782-1854)

虚空蔵香炉(盛岡・1827)、清水寺香炉(盛岡・1830)

六代仁左衛門(金平)政善(1827-1885)

- ・円光寺香炉〔盛岡・制作年不明〕
- ・鳳仙寺半鐘〔紫波・明治12年(1879)〕